

Brooklyn DAC+の導入(6)

—S/PDIF 入力(6)—

1. はじめに

前報(5)に引き続き、Brooklyn DAC+の S/PDIF 入力の試聴を実施します。

2. Brooklyn DAC+の試聴方法

試聴方法は、前報(5)と同様ですが、CD トランスポートは、4716 信楽に固定します。接続および設定は前報(1)で報告したとおりですが、MQA のデコードを enable (有効) に設定します。クロックは、9.2.5 Sync で IN としておきます。

音源は前報(5)のリストのディスコグラフィーのページで紹介している Universal Music 発売の MQA-CD をいくつか選定して聴いていきました。

Brooklyn DAC+ の S/PDIF 入力端子に DACU-500 を装着する効果と CCV-5 を介在させる効果を確認します。CCV-5 を介在させても MQA-CD の再生ができるかどうか、GPS-777 からのクロック周波数の選択はどうなるかをみます。

3. Brooklyn DAC+の試聴結果

まず、Brooklyn DAC+ の S/PDIF 入力端子に DACU-500 を装着しますと、MQA のデコードへの影響はなく、ディテールの再現が向上し、ハイレゾ感が向上します。

次に、GPS-777 からクロックを入力した CCV-5 を介在させますと、残念ながら MQA のデコードはできなくなり、44.1KHz 24bit の表示になりました。音は CD の音を滑らかにしたような音です。CCV-でのクロックの打ち直しが MQA の折り畳み部分の再生に影響するようです。

4. まとめ

Brooklyn DAC+ の S/PDIF 入力端子に DACU-500 を装着しても MQA のデコードへの影響はなく、音質向上が図れます。GPS-777 からクロックを入力した CCV-5 を介在させますと、MQA のデコードはできなくなりました。

以上